

◎ 第2回検討委員会を開催しました

4/24（金）に第2回旧大名小学校跡地まちづくり構想検討委員会を開催しました。第2回では、第1回で頂いた様々なご意見に加え、東京への先進事例調査、第2回検討委員会に先立ち現地調査も実施し、まちづくりの方向性に関するご意見を頂きました。

● 検討委員会の進め方

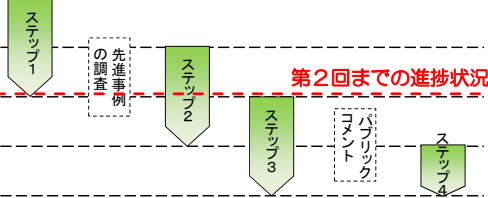
検討委員会での意見を踏まえ、下記項目について、案を示しながら検討を進めていきます。

①旧大名小学校において検討すべき事項

②まちづくりの方向性の検討

③跡地活用に向けた土地利用の考え方の検討

④跡地活用に向けた取り組みの検討



◎ 現地調査をしました

調査先：旧大名小学校校舎内部、屋上、運動場、跡地周辺の街並み など
調査日：平成27年4月24日（金）

校舎では階段室などの特徴的な造作、屋上では外壁の状態や運動場の広さなどを確認しました。また、跡地周辺のえのき通り、西通り、明治通りでは、各通りの特長についても確認しました。



○中央階段



○玄関周り



○校舎外観・えのき通り



○明治通り

◎ 第2回検討委員会でのご意見

先進事例調査や現地調査を踏まえ、まちづくりの方向性の検討に向け、新たな拠点に備える要素として、居住性・防災性・歴史性・創造性などの視点からご意見が出されました。特に、第1回の意見に加え、補足されたご意見を紹介します。

○ 居住性・防災性

- 避難場所や施設等は防災拠点として役割が果たせるものとし、規模や配置、経路などを検討してほしい。
- 風当法の規制がかかるような施設を立地してほしい。
- 不特定多数が利用できる場となった時、広場が校舎の陰になるなど治安上不安。以前の警固公園のようにならないよう利用者の管理がしっかり出来る場となるように考えてほしい。
- 天神、博多との回遊性を考えた時、大名地区にはブランドがあり、まちを散策するなど、精神的、時間的なゆとりをもって安心して歩けることが非常に重要となる。

○ 歴史性

- 建物全部は残せないとしても、一つ一つの細部に人々が生きた歴史が残るようなしかけがあるといいのでは。
- 小学校であった歴史を踏まえると、多くの世代にわたり人を育てる場であり、ひいてはまちづくり、都市の成長に繋がる大事な場所になっていくのではないかと。

○ 創造性

- 大名の創造性は非常に魅力的であり、創造性は子どもや若者の教育とも深く関わる。将来の福岡を担い創造的に未来を創れる人を育てる場としての役割を引き続き担ってはどうか。

○ 一体感・一体性

- まちは均質化してはおもしろくない。大名にしかない創造的な魅力と、明治通り側の颯爽としたビジネス空間などの「変化に富んだまち」は人を引きつける魅力となっており、これが体現できる拠点としてはどうか。

○ その他

- 跡地利用のあり方は、周辺地域も含めた10～20年後の地域の姿を共有し、まちづくりの観点から長期的な展望に立ち考えていくべき。
- 空き状態が長く続くことはいいことにならない、スムーズに跡地を転換していくマネジメントが必要。

次回第3回は、これまでの委員会でのご意見を踏まえ、旧大名小学校跡地まちづくり構想の案について検討していく予定です。

◎ お問い合わせ

旧大名小学校跡地まちづくり構想検討委員会 事務局
福岡市 住宅都市局 都市づくり推進部 都心再生課 光益、定講

電話：092-711-4426 ファックス：092-733-5590 Eメール：toshin-s.HUPB@city.fukuoka.lg.jp

ホームページ：<http://www.city.fukuoka.lg.jp/jutaku-toshi/kaiatsu/toshi/kyudaimyosyogakkoatochi.html>

◎ 先進事例調査をしました

調査先：東京都千代田区（丸の内三菱1号館街区、アーツ千代田3331）
調査日：平成27年3月23日（月）

今後の検討の参考とするため、歴史ある建物の活用、広場などオープンスペースのあり方、学校跡地活用などについて、委員の皆さんと事例調査を実施しました。

(1) 丸の内三菱1号館街区

事例概要

東京駅から徒歩5分に位置し、大手町・丸の内・有楽町地区まちづくりのプロジェクトとして、憩いの中庭「三菱一号館広場」の整備や、丸の内最初のオフィスビル「三菱一号館」（内部は美術館やカフェとして活用）の復元を行った事例です。

特徴

歴史的な建物を活かした都市開発で、広場を中心に、商業・飲食・文化施設などの賑わい施設を配置する事で、一体的な賑わいを創出する空間づくりを行うとともに、街区を通り抜ける歩行者動線を確保することで、地区の回遊性向上に寄与しています。

① 建物に囲まれた広場

噴水や緑が配置された広場を囲むように商業施設や三菱一号館が立地し、低層階のカフェや店舗などの賑わい施設が広場空間と一体となることで、ビジネスマンや観光客などが集う広場の居心地の良さにつながっていました。



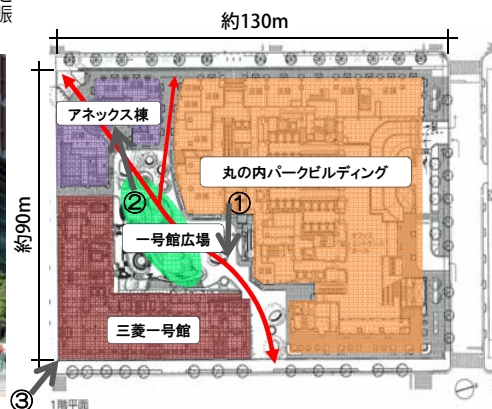
② 歩行者の回遊性の向上

100mを超える街区内に、広場を介して通り抜けることのできる魅力的な歩行者ルートが確保されていることによって、地区内の回遊性向上に寄与していました。



③ 歴史的建築物の活用

復元された三菱一号館は、丸の内の歴史の重厚さを表現するとともに、建物のデザインや緑などとあいまった都市景観の美しさによって、まちの魅力向上や新たな賑わい創出に貢献していました。



(2) アーツ千代田3331

事例概要

H17.3に廃校となった旧練成中学校跡地の活用で、新たな機能（千代田区の文化施策として位置づけられるアートセンター）を民設民営で整備した事例です。

特徴

校舎を活用した学校跡地の利活用で、中学校校舎に、新たに創造的な場となるアートセンターを導入すると合わせて、隣接する公園をオープンな空間に再整備し、アートセンターと一体的な空間を創出し、人や活動が交流する場を創出しています。

◆人や活動が交流する建物に囲まれた空間づくり（隣接する公園と校舎が一体的空間を創出）

校舎の1階（中2階）と公園をデッキで繋ぐことで、一体的で開放的な空間づくりがされていました。校舎の1階（中2階）には、地域住民やアートセンター利用者など、誰もが使えるコミュニティスペースやカフェなどが配置されており、ソフト・ハード両面から開放的な場となっていました。

